会員だより

農協における健康管理活動について

滑川市農協　組織農政課長　楠　　正　義

農村における生活環境は兼業化の進行と，構造的変化により混住化が余儀なくされて来ている現今，衣食住を問わず表面的には都市となんら変わりなく近代化されているように見えるが，農村の実態を眺め，内容を検討するにあたり充分とはいえない面がある。

それは生活に追われる中で無形の財産作り（健康）を忘れているのではないだろうか。所謂，働けるということは自分が健康であるからに他ならないが，一面では周囲の環境に恵まれ本当の健康に気づかないのではなかろうか。このことは農業が近代化され，技術水準の向上に伴う農業機械の普及，自動車運転等による社会的行動に利便性を得たからに他ならない。しかし我々人間はその利便性のみを「有」とし，それらの機械がもたらす人体への影響及び人間本来がもつ潜在的「病」の誘発については全く「無」としている。

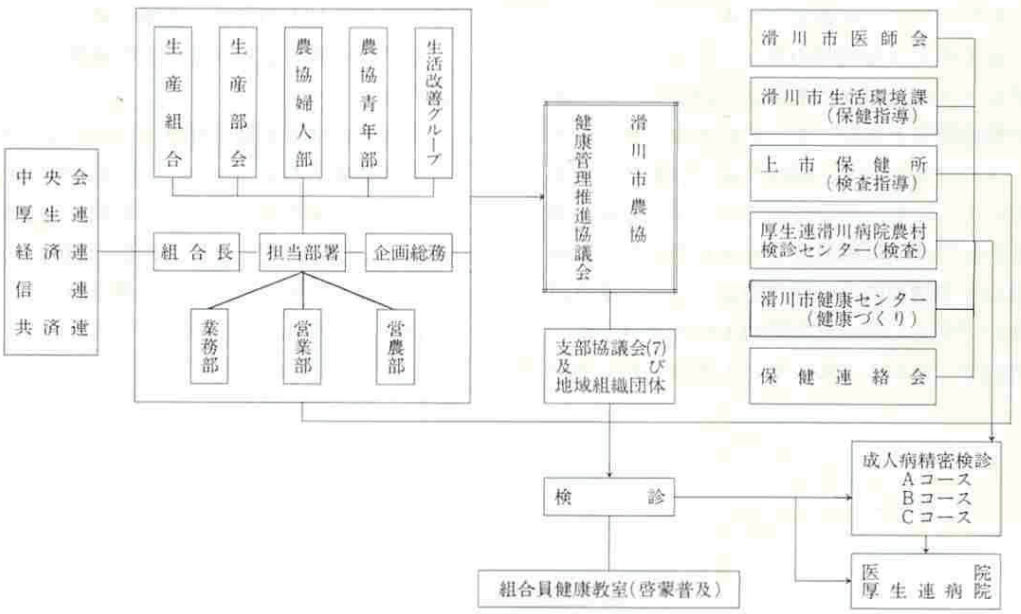
このような農村の変貌の中で，昭和45年全国農協大会において「農民の健康を守る全国運動」の展開を決議されたことはご承知のとおりである。

昭和52年には全国中央会によって農民の健康実態調査が全国的規模で実施され，過重労働・睡眠不足・栄養の不均衡などに加えて新たな健康阻害因子を認識したのである。

当農協においては以前より農協婦人部を中心に食生活改善，検診の実施，環境改善などの運動を展開し貴重な成果を数多く積み重ねて来たのであるが，それは婦人部の事業活動に依存していた形であった。

健康問題を農協事業の重要な柱の一つとして捉え農協内部の体制を整え昭和54年に「健康管理推進協議会」を結成した（農協支所7ヵ所，支部結成含む）

図1　滑川市農協健康管理推進組織図



活動の目標として

1. 検診の徹底
2. 体力づくり運動(栄養,運動,休養)
3. 環境改善運動

（表１） 滑川市農協健康管理推進協議会活動内容

	活　動　内　容
3　月	滑川市農協健康管理推進協議会発足
4　月 4月～11月 〃 〃	・滑川市農協健康管理推進協議会支部結成（７支部） ・一般検診活動（血圧，検尿，胸部，内診）45会場 ・ガン検診（胃，乳，婦人）　・水質検査 ・貧血三ヵ年追跡調査（第１回)(４月)
5　月	・農業労働災害防止月間　チラシ及びステッカー ・保健連絡会 ・料理教室の開校
6　月	・組合員大運動会 ・婦人部緑黄色野菜種子配布（胡麻）全戸配布
7　月	・農村検診センター利用（54年度205名実施） ・保健連絡会
8　月	・母と子の集い　レクリエーション(体操及び親子健康料理)
10　月	・貧血三ヵ年追跡調査第２回 ・移動料理教室（高血圧及び貧血等）
11　月	・緑黄色野菜及び米，大豆利用料理コンクール ・乳製品利用料理 ・農業祭　健康相談室の開設 ・保健連絡会
12　月	・保健連絡会（健康教室打合せ）
1　月	・　〃　（資料の作成）
2　月	・健康教室　医師，スライド，図表，体操（器材使用） 健康料理（食塩量，血圧料理）

検診の徹底については市，厚生連の協力のもとにきめこまかい検診計画をたて運営することが出来た。特に兼業農家が殆んどの為に市側では夜間の検診，或いは休日検診など実状に応じて対応された。住民検診を基礎として関係機関が一体となって取り組んでいる。受診者数は54年77.5%，55年83%と着実に伸びている。

事後指導については，地区の医師，市保健婦，改良普及員，農協生活指導員が事がらの必要性によって対応している。その他，希望者に対して或いは指定地区などの重点検診（貧血，肝機能，癌，厚生連精密検診センター）も活発に行われている。

健康推進協議会を設立し関係機関が相寄って計画をたて実行する時，各自の力が幾倍にも増強されてくることを実感した。

体力づくりの行事のうち支部対抗の組合員大運動会を開催した。この事は体の運動だけでなく，人のふれあいとコミュニケーション復活の場ともなった。

「自分の健康は自分で守る」を基本に生活指導を行っている。従来の婦人部に重点を置いた「生活指導」が，生産組合の参加により大きなひろがりを持つことができた。

亦，関連機関との間に新しい人間関係が生まれ，情報交換など活発に行っている。

目標を同じくする機関が集まって各々が得意な分野の割役を分担し合っている。

推進協議会結成後日も浅く，未だ発表の段階ではないと考えているが，此の協議会を発足させたことによって非常に幅広い活動ができることを体験した。